

# AAS NEWS (Vol. 58)

発行日 令和 6年 7月 4日 (年2回発行)

ネパールもインドもビクラム暦を使うので今年は4月13日がネパール2081年の始まりです。AAS奨学生はこの頃に進級が確定する時期になりますので、第1回目の奨学金支給はここで生徒の進級を確認して送金を開始するのです。ところが、この国では毎年学校(政府)の手続きが遅れ正式な成績表が届きません。各学校が作成する成績表は政府(教育省)の認定印があり初めて正式なものになるとのこと。今回の出張では新奨学生の面接を4月19日~29日に計画したのですが、このプロセスでは書類は暫定的にしか揃いませんでした。早すぎた! 来年度からは5月下旬に出張時期を変更することでネパール側と合意しました。5月は旅行シーズンですが、それでもゴールデンウィークが終われば航空運賃も多少抑えられることでしょう。

## 【2024 カトマンズ : 短信】

1. 名古屋空港の運航がコロナ以降やっと復活したタイ航空を利用しました。運賃は大韓航空などに比して若干高めながら、名古屋から一日でカトマンズに到着するという便利さがあり、待望のセントレア利用のタイ航空復活でした。往路の深夜着になるカトマンズ空港の不便さと帰路の深夜便は少々疲れますが…。

2. 2018年以来、久々に3人のAAS会員が同行することになりました。コロナ後の2回の単独行を経て、楽しい複数の旅となり、この内の2人はジリ訪問の陸路7時間に同行しました。

3. 10+2の奨学生だったプレム・バハドゥール・ジレル君は専門学校の卒業試験を終えて、カトマンズに移住した家族と住んでいます。卒業間近の彼に同行願い、出身地であるジリ村に向かいました。彼の母校であるジリ専門学校(JTS)を一緒に訪問しました。

4. JTSは元々空港だった緩傾斜の土地を利用してスイスの支援により建設された学校です。農業の圃場が広がり土木の実習用の橋が架けられた小川があり、土質試験室、材料強度試験室そして測量機械室やコンピュータ室を見学しました。校長先生はシェルパ氏でシェルパ似の私に好意的な対応をしてくれました。「この学校の卒業生のインターンシップ的に日本の仕事を準備できないか。ネパール各地方に専門学校があり、3年間農業やエンジニアの勉強をして卒業するのだが、この国には肝心の仕事がないのだから、日本への橋渡しがあってもいいのでは?」と、政府の役人を紹介してもらいました。首都に戻ってから少し調べることにしました。

5. 春の野焼きの目的は「焼き畑農業としての農地整備」のほかに「トウモロコシをねらうサルを山から追い払う」そうですが、ジリの道中で堂々とトウモロコシ畑に腰を据えたサルを数回見かけました。実においしそうにまだ若いトウモロコシをほおぼっていました。

6. 帰り道は野焼きの煙の中で、上に続く山の斜面が所々、赤く火の手が上がっているのを目撃しました。ラジオのニュースではネパール全土の野焼きにより死者も出ているとのこと。でも、これが今回の予定を大きく狂わすことになるとは知るよしもありません。

ネパールの国花ラリグラス(しゃくなげ)のまだ咲き誇っている貴重な姿をIPADで撮影し、久々の傑作じゃわいと悦に入っていました。

7. 東部ジリの次はポカラを目指したのですが、新奨学生との面接を予定したその日のフライトはあえなくキャンセルとなりました。野焼きの煙でポカラ空港付近は視界不良となり、朝からのブツダエア-3便が4時間待ちの甲斐もなくキャンセル



ルコールと相成りました。長時間の搭乗待ちで同行者も疲れピークとなり、夕方まで待つかという選択肢は没になり、すくすくとホテルに戻りました。野焼きの煙がドル箱路線の運行を止めた一幕です。帰路の飛行機が確実に飛ぶ保証もなく、ポカラ訪問は諦めました。その後、リモート面接を提案したところ、さすがのコピラ女史、段取りよく2日後のカトマンズ-ポカラのリモート面接を設定してくれました。ネパールに来たのにリモート面接か！

### 【病は突然に(私事です)】

脳梗塞が再発しました。前回の左目からところ変わり今回は右手でした。

夜半3時ころ異変に気がつき、右肩から指先にかけてしびれで目が覚めました。何だろう寝違えたものか、朝になったら元に戻るのかな。一夜中に救急車を呼ぶような、我慢できない痛みや体が動かない状態ではないし、朝まで様子を見るしかない決めて、右肩を上にした横向きでそのまま過ごしました。ところが思わぬ事態になります。翌朝(5月31日)の食事で、右手指に力が入らず、ハシが持てません。茶碗のご飯を口元まで運んでハシをスプーンとして口に掻き込むと言う状態でした。ここで、右手が麻痺状態で血が通っていないことの重大事態をどうするか考えました。

(車の運転は左手だけで何とかなりそう。もし寝違えたものならハリ治療で治るかも。とりあえず知っているハリの先生に診てもらおう。)

無理を言って予約を入れた市内の治療院で、1時間かけてハリとマッサージ治療を受けたのですが、やはり右手は動かず。これは脳の血管が関係するものだと認識することになりました。

思い起こせば9年前の左眼網膜中心動脈閉塞症という長い病名をもらったときは脳梗塞としての治療ではなく、眼科の治療を優先した記憶があります。当時は症状のある眼科だけじゃなく、脳神経外科の診察も受けたのですが、あくまで「ついでの診察・検査」としての病院側の対応だったように思います。やはり脳血管の問題なのか？会社の近くのG脳神経外科で一般外来として順番待ちの診察です。

「とりあえず、MRI画像診断と頸部エコー検査、ついでに胸部レントゲンを行います。」

「昔ラグビーであごを骨折して、その時に金属を埋めたことでMRIはうまくとれないと思いますが？」

「それは、画像で判断しますから。」

撮影後の診察で、少しにこやかに見える医師の診断がありました。

「MRI画像は欲しい箇所の血管は写っていませんね。だけど9年前に脳梗塞があったのなら、今回も**脳梗塞**です。入院しますか、どうしますか」

既往症については受付の間診票で説明済みだったのですが、「脳梗塞の疑い」ではなく「脳梗塞を断定」された状況を考え入院の覚悟を決めました。急性期なので急がなければ。

「脳梗塞の再発」を引き起こす要因で、高血圧・糖尿病・悪玉コレステロールおよびそれらが起因する動脈硬化数値を医師と見直すと、脳梗塞になったのもやむなしか。この際オーバーホールの循環器系統を改善できるかな。10日間は長いけども真面目に治療を受けるか。

【高圧酸素治療】と【血液をさらさらにする点滴治療】および【リハビリ】を10日間受けることに同意しました。会社の仕事は年度初めの時期であり、比較的調整可能な時期でしたが、4月下旬に休暇を取りネパールに行ってきたばかり。仕事を休みすぎていました。

### 【入院生活】

9年前の入院時と同様に一度会社に戻り、入院することの報告と当面の業務の打合せを済ませ、妻に準備してもらった入院用の着替えや備品とともにいざ入院生活へ。人生最初の本格的な「病院で生活する日々」が始まったのでした。

3つ上の兄を病院に見舞いに行った中学生の時の古い記憶がよみがえり、不謹慎ながらどこかでその兄をうらやましく思った、あの病院生活にどっぷりとつかることになりました。ゆっくり時間が流れるなかで本が読める、いつまでも昼寝できるか、などという怠け者の思いはすぐに崩れましたが…。朝5時過ぎには体温測定で起こされ、握力測定のあとに約1時間の点滴が始まります。日課としては朝と午後の点滴と毎日の高圧酸素治療とリハビリがあります。起きてすぐに

トイレに行かないと点滴の間は動けません。病棟には普通トイレと車椅子トイレが男女セットであり、車椅子トイレも使っていることを数日後にやっと知りました。看護師さんが入院説明で言及しなかったので車椅子トイレは一般患者が使えないと思っていました。朝のトイレは結構ラッシュになります。

当初は3人部屋の窓側ベッドで、外の景色は見ることもできましたが、やはり物音が気になる相部屋生活です。9時消灯後にカーテン分離の隣人の携帯着信音が何度も部屋に響き落ち着きません。昼間の生活音も自分が発生源になることも含め落ち着きません。3日目に希望をしていた個室に移ることができ、持ち込んだパソコンをポケットWiFiにつなげて病室を即席の事務室に変えました。ここでネパールからの技術研修員受入のメールやりとりを進めることが出来ました。おならも思い切りできます。その日からシャワーも許可されて快適性が向上しました。病室の掃除のおばさんがパソコンの画面に目を丸くして、「あなたは英語で何をやってるの。真面目に寝ていなさい！静養しなさい！」。でも総じてパソコン対応は大目にみてくれました。

### 【健康生活】

4年前と2年前、大腸カメラ検査の時に10日間程度の断酒生活を経験していたのですが、ここはそれより長期の辛い毎日を強いられることになります。そんなに外食で暴飲暴食したこともない、真面目で品行方正な人生を60台以降は送ってきたはずなのに、少しアルコール過多だけなのに、神様は厳しいな、トホホ…。

発症してしばらくは塩分・カロリーをかなり抑えた病院食が続きます。脂肪が多く今回悪さをしただろう血液を2日で700cc 瀉血し、そこに点滴で血液を1日2回入れ替えます。消灯後はしっかり消灯を守り、睡眠をとり、見回りの看護師さんのライトにも目を覚ますこともありません。病院で静養することでノンアルコール生活と規則正しい食事とで体重が2kg減、血圧が少し下がったことと、朝の快適な寝起きが約束されることを学習しました。

この原稿作成時は右手の握力が70%回復（推定）、キーボードミスと物忘れが多少増えたか。自重している飲酒を除き通常生活に戻りつつあります。G 医院の皆さん有り難うございました。

## 2024年 現・新奨学生面接報告

### 【コマルファンド運営分】 [4/22]

ジリ高校の面接は現奨学生ナヌ・マヤ・ジレル8年生と新奨学生候補の二人。校長先生の前で生徒の口数は少なく、表情は硬いままで残念でしたが、この学校から今回は成績も評価した女性徒一人を選考しました。

他に面接したジリの別の学校から1名、トゥルシプールから2名の合計4名が新奨学生として登録、送金が始まっています。支給中の生徒と合わせAAS奨学生は10名となりました。

### 【バタスファンド運営分】 [4/24]

カトマンズ近郊レレ村にある、サラスワッティー高校までジープで向かった。途中道に迷うも、過去の記憶をたどり、何とか到着したが、校舎はコロナ前とは様変わりです。この学校の以前のAAS卒業生ニルマラさんは郡の奨学金を併給されるほど優秀な女生徒だったが、その後の消息を校長に尋ねると、日本で仕事をしているとのこと。彼女の仕事内容など詳しくは聞けなかったが、どんな生活をしているか知りたく日本での連絡方法を調べようと思いました。学校では事前調整無く5年生全員がJOCV隊員とともに集まってくれましたが、準備もないので引き取ってもらいました。ルパさんの紹介の7年生のバビタさんが選考されました。

[4/28]カマズアナンダホテルにて現奨学生3人の面接とポカラ現奨学生および新奨学生のリモート面接を実施しました。面接グループの内、3年目の笑顔が印象的なラディカさんは昨年の Deng 熱からすっかり回復し成績は上向きです。

また、リモート面接は新奨学生1名と今まで面談がなかった奨学生も含め6名と話すこと出来ました。支給中の生徒と合わせAAS奨学生は8名になります。



## 【AAS会計報告】

### 1. 令和5年度 AAS 活動報告

令和5年 5月22日～6月1日 AAS ネパール調査旅行  
令和5年 7月19日 AAS ニュース VOL.56 発行 60部  
令和5年 12月30日 AAS ニュース VOL.57 発行 60部

### 2. 令和5年度会計報告書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

[費目]	決算(円)	摘要
[収入の部]		
繰り越し	62,821	
会費収入	58,000	29名 複数年会費除く
寄付金	208,350	9名
基金勘定	150,000	基金残高¥1,250,000
利息	2,690	
計	481,861	
[支出の部]		
奨学金	245,826	直接送金+(10+2)
協力機関経費等	0	新規なし
旅費交通費	191,212	
会議費・事務用品費	15,224	AASNEWS 印刷・郵送費ほか
送金手数料	6,160	Kyodai remittance
交際費等	1,943	
外注加工費	11,000	HP 管理費
令和6年度に繰越し	10,496	
計	481,861	

### 3. AAS年会費納入のお願い

令和6年度の年会費（2千円）は同封の振替票による送金をお願いします。複数年会費を頂いた方に振替票が入っていたらご容赦下さい。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

#### 【あとがき】

※今後、1回目の奨学金送金は7月1日（2回目は12月1日）になり従来から1ヶ月遅れとなります。入金を待っている生徒たちのことを考えると、申し訳ないのですが、ネパール政府教育関係部署の対応次第と言うことで、奨学生たちの調整努力を期待するところです。  
※春に訪問予定のポカラ空港が煙の影響で欠航になりました。当国際空港は開港すぐに大きな事故があった空港ですので、運航の安全に万全の対策を実施したものと理解しました。しかし長時間待機と、預けた荷物の受取りが混乱したことで、後便への変更手配する気力が無くなりました。同行の方には残念な次第となりました。ヒマラヤは悠々とみんなを待ってるよ。ずっと。

**【AASの今後】** 奨学金はネパール中高生の通学支援として6年生から10年生まで、進級に合わせて支給中です。今号が58号ですからそろそろ30年になります。25年前に準備したAAS基金もそろそろ黄信号がともっています。一方でAASNews発行者も「病は突然に」黄信号がともりました。かの国の親思いのやさしい子どもたちのことを考えながら、存続方法を模索中です。

AICHI-ASIA-SCHOLARSHIP

愛知・アジア・スカラーシップ

〒440-0862 豊橋市向山大池町18-15 AAS

TEL 080-5293-3400(中沢) FAX 0532-53-3401

郵便振替口座 00830-6-18218 加入者名 AAS

E-mail aas@sala2.dti.ne.jp HP <http://www.kkan.net/aas/iweb>